

CONTENTS

地域発NEWS	1~4
国有林野所在市町村の魅力紹介	5~6
特集コーナー	7
使える！ 行政情報&	8
研究・技術の参考情報	
地域のこの人	9
東北森林管理局の管内で	10
予定されているイベント情報	
新任者・退任者挨拶	11~14

みどりの
Midori no Tohoku
東北
No. 218
令和4年 2022.5
林野庁 東北森林管理局
Tohoku National Forest Regional Office



森林に囲まれた断崖から三段になって落下するこの滝は、高さ約20mで奥入瀬溪流沿いにある滝のなかでも見応えのある滝の一つです。

インターンシップの受入れ

由利森林管理署

3月1日(火)から4日(金)まで秋田県立大学生1名のインターンシップを実施しました。

初日は、局署の管内概要と入庁案内、各事業の説明や安全指導を行いました。

2日目と3日目は、主に業務体験や見学とし、松くい虫被害木特別伐倒駆除、木材利用施設「由利本荘市鳥海山木のおもちゃ美術館」及び本荘由利森林組合によるトラクター牽引型チッパー作業を見学、治山事業概要説明となだれ危険箇所点検調査等を行いました。なだれ危険箇所点検調査体験では、事前にドローン飛行操作のための講習を行った上で、ドローンによる点検調査も体験しました。



インターン生によるドローンでの点検調査の体験

最終日は、若手職員との意見交換を行い、森林管理署業務やインターン生の率直な疑問等の理解、お互いの体験談による相互理解につなげ、取りまとめを行い閉講しました。

期間中は、インターン生から講師に対し、積極的に疑問点を質問するなど、体験を意欲的に取り組む姿が見られました。また、森林管理署業務を体験し入庁への意欲にもつながったようです。

今後は、大学やインターンシップ等で学んだことを活かして、森林・林業行政の担い手としての活躍を期待します。

分収造林制度を活用した教育活動

山形森林管理署

国有林野は、国民共通の財産であるとともに、地域における資源でもあり、森林管理署では、地域振興へ寄与する国有林野の活用に取り組んでいます。

国有林野を地域で活用する一つの形態として、分収造林制度があります。分収造林とは、国が提供した土地に国以外の方が造林者となって、その後の収益を国と一定の割合で分収する制度です。



ふるさと教育の森での植樹活動

山形県村山市は、「ふるさと教育の森」事業で制度の利用をしています。市内の中学生全員が自ら苗木を植え、育てるという体験学習を通じて、自然や森林の大切さを学び、ふるさとに対する愛着心を育むとともに、「いきる力」を育てることをねらいとしているもので

あり、昨年40周年を迎えました。

全国的にも特色のある取組として、平成28年度全国育樹祭で、公益社団法人国土緑化推進機構からの感謝状授与、昨年は、地球環境や地域環境に関する活動での功績として、山形県から「環境やまがた大賞」の授与と、各方面から評価を受けています。

長年の取組の中で、親子2代にわたって参加した家庭もあり、長期間契約となる分収造林制度を通じて、教育の場としてだけでなく、家族や地域の思い出の場にもなっており、国有林野の有意義な活用の方法を示していただいています。

植樹活動は今年も5月31日から3日間、関係機関も協力して炭焼き体験や山野草探しなど森に親しむ森林環境教室も行われる予定です。当署も現地で取組のお手伝いをする事としてしています。

立木公売でドローンを活用

青森森林管理署

当署では、立木の販売促進対策として、令和3年度から立木公売公告にドローンで撮影した写真（以下「ドローン写真」という。）を掲載する取組を東北森林管理局管内では初めて行いました。



立木公売公告に掲載したドローン写真

令和3年度は分収林の公売物件136件中、59件にドローン写真を掲載し、そのうち14件が落札されました。ドローン写真の効果を知るために買受者に対して簡易なアンケート調査を実施しました。ドローン写真のわかりやすかった部分として、「林相の確認」や「山の起伏と全体図の把握に便利」という意見がありました。中には、ドローン写真が購入する決め手となったという意見もあり、販売促進の効果があったこともうかがえます。また、要望として、「遠景からの林道等の位置が分かるように」等多くの意見があり、掲載要望も多数あったことから、今後はより現地がわかりやすくなるドローン写真の撮影を心掛けたいと思います。

多くの分収林が落札されることで地域の活性化にも繋がることから、当署では令和4年度以降もこのような取組を続けてまいります。アンケートへのご協力や立木を購入された買受者の皆様には厚く御礼申し上げます。

ニホンジカ被害対策について

三陸中部森林管理署

当署管内では、平成28年度から国有林野事業としてニホンジカ被害防除事業を実施しておりますが、依然としてニホンジカが高密度に生息していることにより、深刻な農林業被害が発生しています。

被害の中でも、植栽したばかりの苗木が食害に遭うということが深刻な問題でした。そこで、防鹿柵ぼうろくさくを設置し、その中で植林することにしましたが、それには多額の予算が必要な上に、設置後の維持管理にも予算と人手がかかるという問題がありました。

次の手段として、植栽樹種をスギからカラマツに変更しましたが（本来であれば当署管内は気仙スギと呼ばれるスギの適地なのですが）、それでも積雪の上に出た先端部分が食害に遭い、効果が十分とは言えませんでした。

そこで、令和3年度はシカ食害対策剤の散布と単木保護管設置を実施したところ、現在、被害の確認はされておられません。

今後も経過観察を行いながらシカ被害の対策を継続し、造林地の保護に努めたいと思います。



単木保護管設置後の造林地

自然災害からの再生

仙台森林管理署

令和元年の東日本台風では、宮城県と福島県の山間を結ぶ阿武隈急行沿いの国有林でも沢から大量の土砂が線路に流れ込むなどし、地域住民の足である鉄道が機能不全となりました。

さらなる土砂を防ぐにはどういった工事が必要か調査したのち、この春、7つめの治山ダムが完成しました。治山ダムは、山（沢）からの土砂が、一気に大量に流れ出るのを堰き止め、森林が再生する手助けとなるものです。この台風では、地域住民の足である鉄道が機能しなくなりましたが、治山ダムの完成により鉄道の安全性が高まりました。



阿武隈急行と治山ダム工事現場

また、東日本大震災では強い潮風や飛砂から住民の家や農地を守っていた海岸防災林が壊滅的被害にあいました。当署は海岸防災林に守られた地域の再生を願い、昨年春までに、仙台湾沿いの仙台市から山元町にかけての約50kmにクロマツを植栽しました。現在は、立派な海岸防災林が再生されるよう、宮城県や約30の市民団体とマツ林内で、つる切りなどの保育作業や間伐作業に取り組んでいます。

昨今の自然災害の激甚化に備え、当署は地域の安全安心のため海や山へと出動しています。

ナラ枯れ被害と対策

岩手南部森林管理署

「ナラ枯れ」は、「カシノナガキクイムシ」（略称カシナガ）という体長約5mmの昆虫が運ぶ菌（通称「ナラ菌」）が原因で起こります。ナラ菌に感染したナラの木は、道管（樹木が水分を運ぶ器官）が目詰まりを起こし、根から葉へ水分を運ぶことができなくなることで水分不足となり、ナラの木が枯死する森林の被害です。ナラ菌に感染したナラの木は、7月～9月に急速に枯れてしまいます。

近年、全国的に被害が拡大し、岩手県では内陸南部と沿岸地域で被害を受けています。当署管内では、平成22年に奥州市の国有林で初めてナラ枯れが確認され、以降、一関市の民有林で発見されるなど、令和3年12月末までに、北は北上市や花巻市、西は西和賀町の国有林に被害が拡大しています。

そこで、岩手県県南地方の森林資源の保全と森林機能の維持・増進を図り、ナラ枯れ被害の拡大を防止するため、平成25年7月31日に県南広域振興局長と岩手南部森林管理署長の間で「ナラ枯れ被害対策の連携強化に関する協定」を締結し、ナラ枯れ被害の防止対策を推進しています。

協定事項は、被害の早期発見と監視強化、ナラの枯死木を発見した場合の相互の情報提供、情報による速やかな現地調査とその結果の共有などで、被害木に必要な駆除等の措置に取り組んでいます。



葉が赤いのがナラ枯れ被害木

スギコンテナ大苗試験地を設定

岩手北部森林管理署

再造林の低コスト化を目指し、各署で下刈回数低減のため、スギコンテナ大苗の導入を図っておりますが、当署では、令和3年度の一貫作業による事業地において、森林総合研究所東北支所から試験方法等について助言を受けながら、東北森林管理局森林整備課、技術普及課と連携・協力し、下刈回数やコンテナ普通苗との成長量等の比較を行うため、試験地を設定しています。



スギコンテナ大苗 (苗高70cm)

試験地は、スギコンテナ大苗調査区域と、スギコンテナ普通苗(対象区)区域を、それぞれA～C区域の3区域(合計6区域)とし、各区域で下刈回数を変えた区画を設定しています。

A区域は植栽後2年目の1回、B区域は植栽後2・3年目の2回、C区域は植栽後2・4年目の2回実施することとし、毎年度成長量(苗長と根元径)及び枯死量の観測、定点写真撮影による植栽木の状況を調査しています。

調査は令和3年度から実施しており、今後、データ蓄積を行い、令和6年度末まで大苗植栽による下刈省力化の効果を検証することにより、低コスト化を図るためのモデルを構築すべく、調査継続していきます。

採材の単純化による効率の良い森林づくり

津軽森林管理署金木支署

我が国の人工林の多くが本格的な利用期を迎えており、新たな国産材需要を創出していく取組が進められています。

東北地方の多雪地帯では積雪の重みにより根元が大きく曲がった根曲木が多く、一般製材や合板材として活用できないため、根元の曲がった部分(短コ口)は林内に放置されているのが現状です。当支署では平成30年度より試験的に根元材は曲りを含め2mの低質材で造材し、以降は一律4mで造材する方法(採材の単純化)に取り組んでいます。採材の単純化により作業効率が良くなることで、生産性や生産歩留まり(一本の立木から丸太になる量)が向上する結果となっています。作業員からは、「採材の単純化により作業が大変楽になった。」とのコメントがありました。

今までの作業方法では林内に放置されていた短コ口も搬出されることで、林地残材量が減少され、林内はきれいになり、災害時の林地残材流出を軽減することも期待されます。更には木材の利用も拡大され、近年の木材チップの拡大需要にも対応でき地域振興などに貢献しています。

当支署では、今後も低コストで効率の良い森林づくりに引き続き取り組んでいきます。



根元が大きく曲がった根曲木

国有林野所在市町村の魅力紹介

青森県西津軽郡深浦町

津軽森林管理署

深浦町は、世界自然遺産白神山地の麓にある青森県の西南部に位置する日本海に面した町です。かつては北前船の風待ち湊として栄え、円覚寺をはじめとした寺社仏閣や信仰を集める巨樹古木など、現在も多くの文化財が存在します。特に「北金ヶ沢のイチヨウ」は、国天然記念物に指定されている樹齢1,000年以上の老木で幹まわり約22mの日本一の巨樹で、垂れ下がるたくさんの気根から「垂乳根の公孫樹」とも呼ばれています。



日本一の大イチヨウ（黄葉時期）

深浦町の有名な観光スポット十二湖は、四季折々の景色を楽しむことができます。特に青池は、十二湖を代表する神秘的な池であり、青インクを流し込んだように真っ青な池水を湛えています。



青池

陽光と見る角度によって千変万化する幻想的な世界が広がります。十二湖は森林セラピー基地に認定されており、癒しを体験することができます。

津軽の殿さまが千畳の畳を敷いて大宴会を開いたとされる景勝地・千畳敷海岸では多くの奇岩、怪岩が点在しており、長い年月をかけて生み出された大自然の造形美を楽しむことができます。

また、約80kmにわたる海岸線は、「夕陽海岸」とも呼ばれ、日本海に沈む真っ赤で大きな夕陽を眺めることができます。



黄金崎不老ふ死温泉

深浦町は多くの食材にも恵まれており、青森のマグロといえば「大間のマグロ」というイメージが強いのですが、実は深浦町はマグロの水揚げ量が青森県ナンバーワン！マグロの街ふかうらで生まれたマグロ尽くしの大人気メニュー新・ご当地グルメ「深浦マグロステーキ丼」を堪能することができます。



深浦マグロステーキ丼

問い合わせ先：深浦町観光協会 Tel.0173-82-0875

国有林野所在市町村の魅力紹介

山形県西置賜郡小国町

置賜森林管理署

小国町は、山形県の西南端にあって新潟県との県境に位置し、737.56平方キロメートルという広大な町土を有しています。

磐梯朝日国立公園に属する、朝日連峰、飯豊連峰という雄大な山並みに抱かれ、小国町の広大な町土の約95%には、ブナを中心とした広葉樹の森が広がっています。



黒沢峠

ブナの森は、山菜、きのこ、溪流にすむイワナなど、山の幸や川の幸をはぐくんでおり、この豊かな自然空間の中には、たくさんの動物たちが生息しています。小国の人々は、この恵み豊かな森の中での暮らし、森とのかかわりから育まれた独特の生活文化を「ぶな文化」と呼んでいます。

また、小国町は、日本海側気候の影響を受け、



残雪桜

冬は全国有数の豪雪地帯となります。たくさん降る雪は、小国の土地に豊富な水を蓄え、森林をはじめ、そこに生息する多くの動植物の生命を育んできました。その豊富な水資源を活用し、昭和初期に水力発電所が建設されて大手企業の工場が立地し、以来小国町は山村には珍しい第二次産業を中心とする産業構造となっています。

この、町を象徴する二つの素材である白い幹の「ブナ」とたくさんの「雪」から共通してイメージできる「白」をキーワードに、町全体を「白い森」と表現しています。



飯豊温泉 梅花皮荘

小国町の南部方面、飯豊連峰の麓にある「ブナの森・温身平」では、山形県で唯一の森林セラピーを体験することができます。森林セラピーとは、森の癒し効果を活かして心身の元気を取り戻そうという取り組みです。温身平は、平成18年4月に全国初の森林セラピー基地に認定されました。なだらかで歩きやすい総延長約5.5kmの遊歩道が整備されており、体力に自信のない方でもゆっくりと散策を楽しむことができます。



森林セラピー基地温身平

問い合わせ先：小国町 産業振興課 観光交流担当 Tel.0238-62-2416

4月15日に令和4年度東北森林管理局の重点取組を公表しました。新たな森林・林業基本計画に掲げた「グリーン成長」の実現に向け、様々な取組を展開していきます。その取組の一部を紹介いたします。

1. 森林資源の適正な管理・利用

ナラ枯れの被害発生地域においては、積極的におとり丸太を設置し、攻めのナラ枯れ対策を推進していきます。

生息範囲が拡大しているニホンジカについては、ICTを活用した捕獲事業のほか、自治体等へのわな貸出を増やし、シカ捕獲の強化に取り組めます。



おとり丸太法（青森県深浦町）

2. 「新しい林業」に向けた取組の展開

下列の低コスト化と伐採の生産性向上について、3ヶ年計画を作成し、令和4年度から開始します。また、森林3次元計測システムやドローン等の新技術を活用し、林業の省力化・効率化に取り組めます。



森林3次元計測システムによる調査



ドローンによる調査

3. 木材産業の国際+地場競争力の強化

昨今のウッドショック等を背景に調達が難しくなっている高品質材について、国有林から出材される優良材に新たなブランド規格を制定し、供給を拡充します。



市場に出品されたあきたの極上品

4. 都市等における「第2の森林」づくり

再生可能で地球温暖化防止にも貢献する木材について、治山及び林道の土木構造物や庁舎等への利用のほか、間伐材チップを活用したコピー用紙、封筒等の調達を推進します。



林道事業への木材の利用

5. 新たな山村価値の創造

国民に開かれた国有林野の管理経営のため、自ら森林づくりに参加したいという企業や団体等にフィールドを提供します。カーボンニュートラルの実現に向けて、森林づくりに取り組みたい企業等に対して、助言や分収造林制度の活用等により支援していきます。



遊々の森での枝打体験（山形県真室川町）

使える!

行政情報&研究・技術の参考情報

ヘリコプターによる 山地災害等調査

東北森林管理局では、地震や台風、集中豪雨等により大規模な山地災害の発生が想定される場合に、迅速に被害状況を把握するため、ヘリコプターを活用して上空から調査を実施しています。

令和3年度は2回、8月の台風9号から変わった温帯低気圧によって青森県下北地方を中心に大雨が降った際と、年度末の3月に福島県沖を震源とし、宮城県等で震度6強を観測した地震の際に、ヘリコプターによる調査を実施しました。



ヘリ機内からの調査風景

特に、8月の調査では、国道279号沿いの広範囲で土砂流出の被害が確認される中、より山側の被害状況については、悪天候や現地の道路状況等により、なかなか調査が行えない中、上空から概況を把握することができ、その後の災害復旧調査に活かされました。また、3月の調査では幸いにも被害の状況は確認されませんでした。大規模な被害が想定される場合には、被害がないことを早急を確認できたことも大変重要な成果と考えています。

なお、調査を行う際には、民有林支援の一環として、県の担当者にも同乗いただき、県との合同調査として、国有林だけではなく隣接する民有林についても同時に調査しています。

東北森林管理局では、こうした局が企画する調査だけでなく、県や市町村からの要望を受けてヘリコプターやドローンで調査を行うこともできますので、山地災害が懸念される時にはお近くの局・署等にお気軽にご相談ください。



ヘリ調査結果の例

ご関心のある方は、お気軽に最寄りの森林管理署等(裏表紙参照)へお問い合わせ下さい。

ユリノキ優良個体による モデル採種園の造成

人工林の多くが本格的な利用期を迎え、主伐の増加が見込まれる中、森林の多面的機能を発揮させつつ、資源の循環利用を実現するためには、主伐後の再造林の実施が必要です。このような中で、成長が早く短期間で収穫ができる早生樹が注目されています。早生樹として、西日本では主にセンダン、コウヨウザンなどが植栽されていますが、寒冷な東北地方に適した早生樹としてはユリノキが挙げられ、日本では明治時代より公園などに植栽されています。岩手県盛岡市に植栽された事例では、樹齢24年で平均樹高28mと優れた成長を示しています¹⁾。ユリノキの利用方法について原産地の北米では、建築材、家具材、パルプ材として広く利用されている他、養蜂における蜜源樹木としても知られています。

森林総合研究所林木育種センター東北育種場では、令和元年度から青森・岩手・秋田・宮城・山形・新潟の各県において成長・通直性に優れた材質にも配慮したユリノキ優良個体を選抜しています【写真-1】。



【写真-1】
収集した優良個体(青森県十和田市)
(樹高31.7m 胸高直径87cm)



【写真-2】
造成中のユリノキモデル採種園

選抜した優良個体は、順次つぎ木により増殖を進めており、令和3年度から、増殖したつぎ木苗によるモデル採種園(種子生産のための林分)の造成を東北育種場内において開始しました【写真-2】。今後、開花時期などの特性評価や種子生産に適した樹形誘導等の研究を行う計画です。

1) 毛藤勤治:「ユリノキという木」96p、アボック社出版局、1988

ご関心のある方は、森林総合研究所林木育種センター東北育種場(Tel.019-688-4518)へお問い合わせ下さい。

地域のこの人

文系女子が林業に携わって

岩手県森林組合連合会
企画管理部指導グループ員 藤澤 実那さん

平成30年4月に新卒採用で入会、この4月で早5年目を迎えました。『緑の雇用』事業の監督・検査業務や森林保険の引受業務、林業退職金共済の管理、各種研修の運営や機関誌『こだま』の編集などを担当し様々な仕事をしております。

大学は県外の人文学部で、森林・林業とは全く縁がなかったのですが、地元岩手での就職を考えた際、『岩手県森林組合連合会』という名前に直観的に強く惹かれ、その後女性が長く勤務するための環境が整っていることなども志望動機となり現在に至っております。

予備知識もなく迎えた初任者研修において、本会の盛岡木材流通センターにてアカマツや広葉樹がゴロゴロ展示されているのを見て、『現代にこんな巨木があるのか』と驚きました。最近では現場に出かける機会も増えてきましたが、チェーンソーのけたたましい音には未だに慣れません。



現場での打ち合わせ（写真右側が筆者）

木を伐り、加工・販売し、伐採跡地に植林し保育するといった、大きなサイクルの中で様々な方が携わっており、現代の立派な木材の元ダネは、何十年も前の苗木であることを改めて実感しております。健全な森林サイクルの維持に向け、現場・事務両面で、林業に携わる人がひとりでも増えてくれればうれしく思います。

庄内海岸林を守るために

庄内森林管理署羽黒森林事務所
森林官補 宮崎 怜さん

羽黒森林事務所は鶴岡市・庄内町を管轄しており、信仰の地である羽黒山や月山、また、強風から地域の方々のくらしや農地等を守る庄内海岸林など様々な場面で地域とともにある現場です。

庄内海岸林では、これから初夏にかけて、一大事業である松くい虫被害木の駆除が始まります。近年は被害の影響で林内にギャップが発生し、防風機能の低下が懸念されています。そのため、当署では海岸林保全のために上記の駆除や薬剤散布など松くい虫への対応・対策を継続的に行っています。

一方で、管理（造林）方法には海岸林を一から造成していた頃から引継がれている方法もありますが、現在の林地状況に合った方法として、低密度植栽の検討も必要と思われまます。

平成14年に発足した「出羽庄内公益の森づくりを考える会」では、官民の垣根を越えて庄内地域が一丸となり海岸林を未来へ継承する継続した取組が進められてきました。その一環で、管理方法の再検討もされ始めています。検討には様々な要因を踏まえた検証の必要もあり一筋縄ではいきませんが、将来に海岸林を健全な姿で残すためのとても重要な取組です。そこに立ち会えることにやりがいと責任を感じながら、関係者と共によりよい管理方法を模索したいと考えています。



監督業務の様子

5月中旬

徳仙丈山 ツツジ鑑賞

5月中旬～下旬
約50万本のヤマツツジ・レンゲツツジが新緑の山を朱紅色に染めます
(宮城県・(一社)気山沼観光コンベンション協会)

千秋公園つつじまつり

5月中旬～下旬
約2,600株のツツジが美しく咲き誇り、夜間ライトアップは幻想的
(秋田県秋田市)

春の千年杉～白龍の滝を歩く～

5月21日(土)
森の巨人たち百選の千本杉と、亜高山帯の植物郡の鑑賞が見所
(宮城県蔵王野鳥の森自然観察センター)

生協ふれあいの森植樹祭

5月22日(日)
青森市の眺望山自然休養林内において、ヒバの苗木などを植樹する
(青森県生活協同組合連合会)

ちょっと森林浴散歩

5月22日(日)
春の森(国立公園内)を歩いてリフレッシュしませんか?
(岩手県・網張ビジターセンター)

摩耶山春の登山会

5月22日(日)
新緑の中を登山し、神事には摩耶姫が参列します
(山形県鶴岡市)

天童高原新緑ウォーキング体験

5月22日(日)
山野草や樹木を見ながら新緑の天童高原を40分コースで歩きます



5月下旬

満喫！蔵王の春

5月28日(土)～5月29日(日)
蔵王の春の自然に親しみながら、親子のふれあいを深めます
(宮城県蔵王自然の家)

第18回秋田白神ノルディックウォーキング

5月28日(土)～5月29日(日)
能代市内の「まちなか」と、白神山地のブナ林を歩きます
(秋田県・NPO法人能代観光協会)

ビジターセンター周辺生き物探検

5月29日(日)
沢山の草花や昆虫の宝庫、網張を探検してみませんか?
(岩手県・網張ビジターセンター)

村山ふるさと教育の森

5月31日(火)～6月2日(木)
村山市の全中学生が国有林内で植林など自然環境教育を体験します
(山形県村山市)

JOMON COLLECTION(モンコレ)

4月29日(金)～6月5日(日)
白神山地の森林利用をテーマとした写真展
(青森県・白神山地ビジターセンター)

船形山山開き

5月下旬
ブナ林が美しく、日本二百名山のひとつにも数えられる
(宮城県加美郡加美町ほか)

グレンデ登山ウォーク

5月下旬
普段リフトで登っているグレンデをじっくり歩いてみませんか?
(岩手県・網張ビジターセンター)

月山の残雪とブナの新緑トレッキング

5月～6月
冬の名残と訪れた春が同居し、広大なブナの原生林が見られます
(山形県立自然博物館)

6月

秋田駒ヶ岳山開き

6月1日(水)
ミネザクラを皮切りに駒ヶ岳の可憐な花々を楽しめます
(秋田県仙北市)

飯山山開きと番楽奉納祭

6月上旬
女飯山の大カツラや町の伝承文化番楽が見学できます
(山形県最上郡真室川町)

日本百名山 早池峰山山開き

6月12日(日)
北上山地の最高峰。奥宮では早池峰神楽権現舞が奉納される
(岩手県遠野市)

朝日連峰夏山開き

6月19日(日)
自然の雄大さを楽しめて、朝日連峰の美しさを堪能できます
(山形県朝日町)

溶岩はどこから?焼走り地形散歩

6月19日(日)
市民火山教室で、散歩しながら学びましょう
(岩手県・網張ビジターセンター)

陸奥湾の海と山をつなぐ植樹祭

6月19日(日)
陸奥湾のホタテを高温から守るため植樹活動を行います
(陸奥湾のホタテを高温から守る植樹祭実行委員会)

蔵王に登ろう！山ガール教室①

6月19日(日)
蔵王の自然の美しさや環境に触れ、登山の楽しさを味わおう
(宮城県蔵王自然の家)

青森ヒバの森&森林鉄道遺構巡り

6月25日(土)
津軽森林鉄道をめぐり青森ヒバの森を散策します
(青森県・(一社)かなぎ元気村)

※掲載内容は、新型コロナウイルス感染状況や天候等により変更となることがありますので、主催者等にご確認下さい。
また、紙面の都合等で掲載できなかったイベントもありますので、ご了承下さい。

新任

総務企画部長

乾 光一 (宮城県)

前職 会津森林管理署長 (関東局)



4月より東北森林管理局総務企画部長となりました乾です。昭和61年に東北森林管理局(旧青森営林局)に採用となり、その後、林野庁、中部森林管理局、九州森林管理局、関東森林管理局の各地で勤務し、おかげで47都道府県すべてに出張等で行くことができました。

27年ぶりに東北局での勤務となりましたが、職員が安全・健康に仕事をする事、また、地域において森林管理署等があつてよかったと言われるようPRしていきたいと思ひます。

森林整備部長

唐澤 智 (長野県)

前職 愛媛森林管理署長 (四国局)



着任して、日の出が30分以上早くなり、随分東に来たなと実感したところです。

愛媛署長の前は津軽署長で約2年お世話になっており、再び東北局で仕事ができることを大変うれしく思っています。

長野営林局(当時)に採用され12年、その後林野庁で19年半。振り返れば、木材関係など森林整備部関連の仕事が多かった気がします。微力ながら、決意を新たに業務に取り組む所存ですので、どうぞよろしくお願ひします。

保全課長

加藤 重義 (秋田県)

前職 山形森林管理署最上支署長



保全課では国民の森林である国有林野の土地や財産の管理を担当しています。また、国民の皆様のご生活環境改善や地域振興対策として、土地の売り払いや貸付けなども実施しています。さらに、レクリエーションの森として、自然とのふれあいや登山などの余暇の楽しみにも国有林野は活用されています。

治山課長

玉舘 力 (北海道)

前職 林野庁治山課課長補佐



治山課の主な業務としては、自然災害の対応と保安林に関する業務があります。自然災害の対応については昨年8月の大雨による災害では青森県を中心に大きな被害が発生しましたが、地元住民の安心・安全な暮らしを守り、再度災害を防止するために早期の災害復旧に努めてまいります。

技術普及課長

庄司 卓矢 (秋田県)

前職 三陸北部森林管理署久慈支署長



東北地方に合った林業の省力化・効率化を進めていくため、ICTを含めた新技術に試行・先導的に取り組むとともに、国有林の豊かな自然環境や特性を活かした森林環境教育の実施など、地域に役立つ取組を進めていきたいと思ひますので、よろしくお願ひします。

青森事務所副所長

古川 繁樹 (青森県)

前職 林野庁木材産業課課長補佐



5年ぶりの東北森林管理局勤務となります。出身が青森県の津軽地域ということもあり、言葉の面で大変助かっております。未だにコロナウイルスの影響が収まらない日々が続いておりますが、地域から信頼される国有林となるべく全力で取り組んで参りますので、よろしくお願いいたします。

下北森林管理署長

小笠原 孝 (秋田県)

前職 東北森林管理局保全課長



4月1日付けの異動で下北森林管理署長を拝命いたしました小笠原です。旧秋田局に採用され、平成6年旧青森局に異動となり配属されたのが下北(旧川内署)でした。久しぶりの下北での勤務となりますがよろしくお願いいたします。

岩手北部森林管理署長

東海林 見 (岩手県)

前職 東北森林管理局技術普及課長



署の勤務は2年ぶり、当署の勤務は初めてですが、まずは人と山を覚え、怪我のない話しやすく明るい職場づくりに励み、出身地でもある岩手の国有林のため、職員共々取り組みたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

三陸北部森林管理署久慈支署長

大沼 光広 (宮城県)

前職 東北森林管理局総務課企画官



久慈支署は、1市2町2村の国有林約27千haを管理しています。現場を預かる身として、「安全第一」を心掛け、職員のみならず林業事業者等の安全確保にも努めるとともに、支署が地域に必要とされる存在であるよう、地元自治体等との連携、情報発信等にも努めてまいります。

岩手南部森林管理署長

添谷 稔 (栃木県)

前職 林木育種センター関西育種場長



多様な森林づくりの推進や林業の低コスト化、ナラ枯れ対策、国土強靱化等に取り組むとともに、民有林との連携を通じて地域の森林・林業にもお役に立てるよう、皆様と顔の見える関係を築いていきたいと考えております。よろしくお願いいたします。

米代東部森林管理署長

三原 隆義 (福岡県)

前職 置賜森林管理署長



米代東部森林管理署長を拝命しました三原隆義です。よろしくお願いいたします。地域の方々と連携し「林業ってこんなに楽しく面白いんだ！」と昔のように山に人が集まって来る「魅力のある森林・林業」を目指し、署員一丸となって頑張っていきます。

新任者・退任者挨拶

4月1日付

山形森林管理署最上支署長

成田 敏 (青森県)
前職 米代東部森林管理署次長



山形県での勤務は初めてとなりますが、蕎麦、ラーメン、フルーツ等など、おいしい食べ物がたくさんあると聞いておりますので、それらを堪能しつつ、地域を災害から守るための治山事業など国土保全の取組や、国産材時代に対応した木材の安定供給を重点的に取り組んで参ります。

庄内森林管理署長

山之内 弘幸 (栃木県)
前職 林野庁木材産業課課長補佐



4月に庄内森林管理署に参りました山之内です。前職では、木材加工施設整備の支援を通じて「伐って、使って、植えて、育てる」木材の循環利用の一端を担っていました。今職は「伐って、植えて、育てる」ことに併せ森林のもつ様々な公益的機能の維持増進に携わる職務と心が引き締まります。

置賜森林管理署長

水野 明 (愛知県)
前職 林野庁計画課課長補佐



雄大な朝日、飯豊及び吾妻連峰に囲まれ、ブナ林などの貴重な天然林が多く存在する山形県南部の置賜森林管理署長をこの4月から務めています。豊かな自然を守り、地元密着型で地域の森林・林業に貢献する森林管理署を目指して何事にも全力で取り組みます。どうぞよろしくお願いたします。

津軽白神森林生態系保全センター所長

高木 善隆 (秋田県)
前職 東北森林管理局森林整備部企画官



このたび、4月1日付けで津軽白神森林生態系保全センター所長を拝命いた高木善隆です。

白神山地の貴重な生態系の管理と適切な利用を促進するため、巡視活動やボランティアによる自然再生活動、林業体験等を通じた森林環境教育などの取り組みを進めていきたいと思ひます。

退任

前総務企画部長 原嶋 広行

令和元年10月に着任し、2年6か月間、職員や地域の関係者の皆様には大変お世話になりました。

着任早々の台風災害への対応をはじめ、令和2年3月以降は新型コロナの感染対策、令和3年度は発注者網紀保持の新たな取組、本広報誌の見直しなど、様々な課題に携わらせていただきました。

4月からは、本庁で福利厚生を担当します。職員の健康・安全の確保や、新型コロナ対策など、東北局での経験を糧として取り組みますので、引き続きよろしくお願いたします。

前森林整備部長 間島 重道

令和元年12月に着任以来、皆様には大変お世話になり誠にありがとうございました。お陰様で多様で豊かな東北の森林と向き合い充実した日々を送ることができました。在任中に取り組んだ低コスト造林技術の開発・定着やコロナ禍・ウッドショックでの国有林材供給等には一定の役割を果たせたと感じておりますが、東北局ではこれからも引き続き地域のお役にたてるよう取組を進めて参ります。どうかご理解ご協力を宜しくお願いたします。

新任者・退任者挨拶

4月1日付

3月31日付

前治山課長 中島 浩徳

在職中には、東日本大震災以降、歴代の皆様が集めてきた海岸防災林復旧事業の完了に立ち会ったり、昨年8月の下北豪雨災害に対応したりと貴重な経験をしました。4月で東北局を離れましたが、この経験を次の業務にも活かしていきます。2年間大変お世話になり、ありがとうございました。

前青森事務所副所長 野呂 徳美

3月31日付けをもって退職となりました。昭和55年、青森森林管理局に採用以来42年間、良き上司・同僚・部下による、保育、手入れのおかげで風雪に耐え、ナラ枯れにも負けず、この日を迎えることができました。大変お世話になりました。

前下北森林管理署長 小松 信人

3月31日付けで定年退職となりました。最終年では、下北豪雨災害という貴重な体験をしました。大変でしたが組織力、連帯感、若手の行動力など大いに感じる事が出来ました。

未来は明るいと感じています。

今後の皆様のご活躍を祈念しております。

42年間ありがとうございました。

前岩手北部森林管理署長 浅利 一成

定年退職を迎え、職員はじめ業務に携わり協力や助言などをくれた関係者の方々には感謝申し上げます。振り返ってみますと一瞬に過ぎたような感覚で、転勤により各地域の風土や文化に触れ、多くの人に出会えたことが貴重な財産です。現役の皆様方におきましては、益々のご活躍を祈っています。

前岩手南部森林管理署長 中島 章文

4月1日付けで富山森林管理署へ異動となりました。令和2年4月に赴任してから2年間、ちょうどコロナ禍の2年間でもありましたが、地域の皆様、職員の皆様には大変お世話になりました。皆様とともに様々な仕事に携わることができてとても幸せでした。ありがとうございました。

前米代東部森林管理署長 一ノ宮 秀和

昭和55年、営林署という言葉も知らないまま職場に入り、あっという間に42年が過ぎました。この間、上司、部下、先輩、後輩に恵まれ、楽しく過ごせたと感じます。

皆様のご健康と益々のご活躍を祈念し、挨拶とさせていただきます。お世話になりました。

前庄内森林管理署長 高橋 守

3月31日付けをもって定年退職となりました。昭和55年4月1日に林業を何もわからないまま採用され、先輩達からの指導で42年間の国有林生活を楽しく終えることができたとともに、山・森林の楽しさ・面白さは退職しても続けられる趣味となりました。皆様本当にありがとうございました。

前津軽白神森林生態系保全センター所長 田中 裕治

3月31日付けをもちまして退職となりました。昭和55年4月青森営林局に採用されて以来42年間国有林での勤務を無事終える事ができました。皆様からの御指導を賜りましたことに対し改めて深く感謝申し上げます。今後の皆様のご多幸・御発展を祈念しまして退任の挨拶とします。

東北森林管理局マップ

広報誌「みどりの東北」スマートフォン対応版はこちら↓



問い合わせ先

青森県	青森事務所	青森市篠田三丁目22-16	☎017-781-2117	宮城県	宮城北部署	大崎市古川東町5-32	☎0229-22-2074
	津軽署	弘前市大字豊田二丁目2-4	☎0172-27-2800		仙台署	仙台市青葉区東照宮一丁目15-1	☎022-273-1111
	金木支署	五所川原市金木町芦野200-498	☎0173-53-3115	秋田県	米代東部署	大館市上代野字中館3-23	☎0186-50-6130
	青森署	青森市篠田三丁目22-16	☎017-781-0131		上小阿仁支署	北秋田郡上小阿仁村沖田面字野中376-13	☎0186-77-2422
	下北署	むつ市金曲一丁目4-6	☎0175-22-1131		米代西部署	能代市御指南町3-45	☎0185-54-5511
岩手県	三八上北署	十和田市西二番町1-27	☎0176-23-3551	秋田署	秋田市河辺和田字和田156-3	☎018-882-2311	
	津軽白神センター	西津軽郡鰺ヶ沢大字瀬戸町字東阿部野70-82	☎0173-72-2931	湯沢支署	湯沢市田町二丁目6-38	☎0183-73-2164	
	森林技術支援センター	北津軽郡中泊町大字中里字亀山540-8	☎0173-57-9022	由利署	由利本荘市水林439	☎0184-22-1076	
	岩手北部署	八幡平市荒屋新町41-8	☎0195-72-2221	藤里センター	山本郡藤里町藤里字大間添24-3	☎0185-79-1003	
	三陸北部署	宮古市磯碓石崎4-6	☎0193-62-6448	庄内署	鶴岡市末広町23-37	☎0235-22-3331	
宮城県	久慈支署	久慈市夏井町大崎14-12	☎0194-53-3391	山形署	寒河江市元町一丁目17-2	☎0237-86-3161	
	三陸中部署	大船渡市盛町字津野沢7-5	☎0192-26-2161	最上支署	最上郡真室川町大字新町字下荒川200-11	☎0233-62-2122	
	盛岡署	盛岡市北山二丁目2-40	☎019-663-8001	置賜署	西置賜郡小国町大字岩井沢581-45	☎0238-62-2246	
	岩手南部署	奥州市水沢東上野町12-17	☎0197-24-2131	朝日庄内センター	鶴岡市下名川字落合3	☎0235-58-1730	
	遠野支署	遠野市東館町7-39	☎0198-62-2670				

東北森林管理局 〒010-8550 秋田県秋田市中通 5-9-16 ☎018-836-2014



No. 218 ●発行日/令和4年5月 ●発行/東北森林管理局

●東北森林管理局ホームページもぜひご覧ください
<https://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/>



本誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために製材を積極的に使用しています。